

会議議事録

会議の名称	第 27 回 宇和島市子ども・子育て会議
開催日時	令和 7 （2025） 年 2 月 3 日(月) 14：00～14：30
開催場所	宇和島市役所 2 階小会議室
出席者氏名	古谷委員、安田委員、渡部委員、高月委員、河野委員、 宮久委員、高橋委員、森委員、牧野委員
欠席者氏名	山下委員、中野委員、楠葉委員
行政関係職員氏名	教育委員会 森田部長、学校教育課 中山課長、生涯学習課 杉浦課長、 保健福祉部 保険健康課 山本課長
事務局職員氏名	保健福祉部 横山部長 こども家庭課 千葉課長、岡原課長補佐兼総合支援係長、白井課長補佐兼こども育成係長、二宮主任
会議次第	1 開 会 2 議 事 第 27 回 宇和島市子ども・子育て会議 議事録の承認について 第 3 期 宇和島市子ども・子育て支援事業計画素案（修正）について パブリックコメントの実施について 3 閉 会
配付資料	第26回宇和島市子ども・子育て会議 議事録 第 3 期子ども・子育て支援事業計画素案（修正） 次第
その他	

議事内容	
事務局	・ 資料確認 ・ 開会 ・ 出席者数確認、会議の成立について
会長（進行）	・ 議事 第 27 回宇和島市子ども・子育て会議 議事録の承認について、事務局から説明願いたい。
事務局	・ 議事録の修正箇所説明 ・ 修正箇所について、よろしいですか。 ・ 了解いただいたので、この内容で議事録を公開します。
会長（進行）	・ 続いて、議事 第 3 期宇和島市子ども・子育て支援事業計画素案（修正）について、事務局から説明願いたい。
事務局	・ 第 3 期宇和島市子ども・子育て支援事業計画素案修正箇所説明
会長（進行）	・ 意見や質問があれば伺いたい。
委員	・ 充実しており、推進施策や改善策を読むと、素敵に展開していくと思った。 ・ 長く現場にいた者として気になったので、54 ページ、保育人材の確保と育成について質問したい。国の法律ができて地方に下り、予算が付けられて事業が展開され、建物が建てられ、環境が整うが、実際に動く人材がどこも足りないという声が聞こえてくる。子育て一時預かりも人材不足で、十分に対応できないなどある。この場で発表できる具体的な情報があれば知りたい。
事務局	・ 人材の確保は、急務で重要です。宇和島市としては、2つの補助金を考えています。まず、要件はありますが、令和6年度からは、県外から宇和島市に帰って保育士になってくれる人に補助金を出す「U I J ターン補助金」があります。もう一つ、今後考えている制度があります。人材が確保されることで、それぞれの負担が軽減されると思うので、力を入れていきたいと考えているところです。
委員	・ 現場でやらないといけないことが先に来て、現場に人がいないという、後先が逆にならないようにしてほしい。また、素案には研修についても書かれているが、質を高めることも必要だ。悲しい事件の報道もあるので、人数が揃えばよいというものではないことも踏まえて、しっかりと取り組んでほしい。
会長（進行）	・ 最近、困難な状況を持っている子どもが増えているように聞く。松山市ではそういう子どもに補助員がいるという話を聞いたように思うが、宇和島市ではどうなのか。この補助員は、学校支援員のような感じのものだ。
事務局	・ 宇和島市としては、民間の保育施設で加配の保育士が必要な場合に、必要に応じて補助金を出す制度を導入しています。また、補助員については考えていません。第一は、保育士の資格を持っている人の確保で考えています。
会長（進行）	・ 現場としては、募集をしてもなかなか来てもらえない現状があるので、何らかの形で、資格を問わずサポートがあると有り難いかなと思った。検討してもらえたらと思う。

議事内容	
委員	・学童でも、ADHDや境界線に近い児童が本当に増えているのが事実だ。有資格者がよいのかかもしれないが、資格うんぬんよりも、きちんと子どもたちのことが分かり、困難に立ち向かっている子どもを助けていこうという意欲のある人がほしい。人材不足はどこも抱えている問題だと思うので、もう少し募集をかけるなどしてくれると有り難いというのが現場からの声だ。よろしくお願いします。
委員	・昔、資格がない人が幼稚園に入っても補助金が出るというのがあったので、当時は人材不足で本当に助かった。ほかの委員からもあったように、施設は保育士不足、人材不足だ。現場としては、資格がなくても、ちょっとした補助をする人を雇ったときに補助金があるという制度は助かると思う。一番は保育士だが、現実問題として手が足りていない。うまくサポートしてもらえたらよいと思う。
事務局	・子どもの数は減っているが、現場では足りていません。公立園でも余裕ある状況ではなく、募集をかけている状況です。声を参考にしたいと思います。
委員	・22 ページ「架け橋期教育計画」は、どのように活用しているのか。学校が統廃合され、小さい集団で育つ子どもが就学していく状況がある中、就学時の幼保施設との連携や小学校から大きな中学校へ入るときのつながりの現状が分かれば知りたい。
事務局	・幼稚園から小学校へ入学、小学校から中学校に入学するとき、小1ギャップ、中1ギャップがあります。そこで、事前に幼稚園や小中学校が連携してスムーズに入学できるようなプログラムを実施しています。教員同士が行き来して情報交換をしています。
会長（進行）	・うちの園でも、新型コロナ以前は小学1年生が里帰り保育をしていたが、コロナ禍でできなくなり、まだ復活していない。全体的にそんな感じか。
事務局	・コロナ禍をきっかけに、一時中断したものが半数ほど復活できない状況です。
委員	・統廃合の中で、保護者も不安な部分を抱えながら見守っている状況があるので、よろしくお願いします。
委員	・困難な事情を抱えている場合、就学の際の引継ぎは行われているのか。
事務局	・専門の人が就学前に聞き取りを行い、園と学校につなぐよう回っています。現場の声を拾うようにしています。
委員	・うちの学童でも入所前に、保護者が問題を抱えているところはアンケートに記述してもらうようにしているが「保育園でこういうことをして、支援を受けたが、学校が把握していない」という人がいた。きちんと施設を通じて、学校側に上がるようにしているということか。
事務局	・制度的にはそうです。 ・学校の方から幼稚園に出向き、園の様子などを就学前に聞くような仕組みになっています。

議事内容	
委員	・うちには来た。 ・22 ページに「定期的に連絡会」とある。この時期にはあるが、もう少し年間を通して、幼稚園と小学校の連携をしてほしい。足りないと感じる。具体的に何をすればよいのか思い浮かばないが、幼稚園から小学校にスムーズに行くようにならないかと思う。接続の大きな溝があることを感じる。今後は幼稚園と小学校の連携の機会を増やすなどしてもらいたい。
副会長	・幼稚園と小学校の連携について、保護者から「年長から小学校に上がるにあたって、とても不安だ」というのがあったので、2年ほど前から縦のつながりをよくしようと、小学校の校長先生にお願いして、年間何回か交流をしている。子どもの不安として、制度や決まりの違い、学習があるということが分かったので、交流して遊ぶだけでなく、授業を見せてもらう、学校行事の応援、幼稚園の催しに1年生が来て一緒に遊ぶということを意欲的に行ってきた。そうすると、保護者から「早く学校へ行きたい」と子どもが言い出したということもあったので良かったと思った。今年からは縦だけでなく、小学校に入ったら一緒に保育園との横のつながりもつけている。スムーズに入学できるように徐々に行っている。カリキュラムの作成や教育課程に入っていないが、大まかな感じでやっている。
会長（進行）	・ほかにあれば伺いたい。 ・なければ、本日の議事を終了したい。 ・事務局から連絡などはあるか。
事務局	・パブリックコメントの実施について ・今後の予定について
委員	・パブリックコメントの周知はどうするのか。
事務局	・宇和島市のホームページやその他の媒体を駆使して、募りたいと思っています。
委員	・幼稚園や保育園の保護者に紙を配るなどしないと、皆知らないし、パブリックコメントの意見が集まらないのが現状だと思う。実際の保護者の意見をもらうためにも周知が大事だ。よければ、各園の保護者に紙媒体を配って認知してもらうようしてもらいたい。
事務局	・参考にしたいと思います。
会長（進行）	・そのほかにあれば伺いたい。 ・なければ、これで会議を終了する。 ・閉会

以上